

# 1. 環境マネジメント

## 環境理念・方針

### ■自然・社会との調和を目指した企業活動

「環境理念」を達成するために「環境方針」を定め、全員参加で環境保全活動に取り組むことにより、お客さまの信頼、従業員の満足、地域社会への貢献を目指します。

## 環境スローガン

「もっとまわりを大切に！」 グリーン



## 環境理念

私たちのまわりを取り巻く、自然や、生物や、人々に感謝し、私たちの企業活動を通じ、より大切に、より改善して、次世代にバトンタッチ出来るよう「良き企業市民」として行動します。

## 環境方針

私たちは、地球環境の向上と企業活動を調和させ、環境負荷の低減を考慮した生産活動を追及することにより環境保全と資源を大切にする企業活動を推進します。

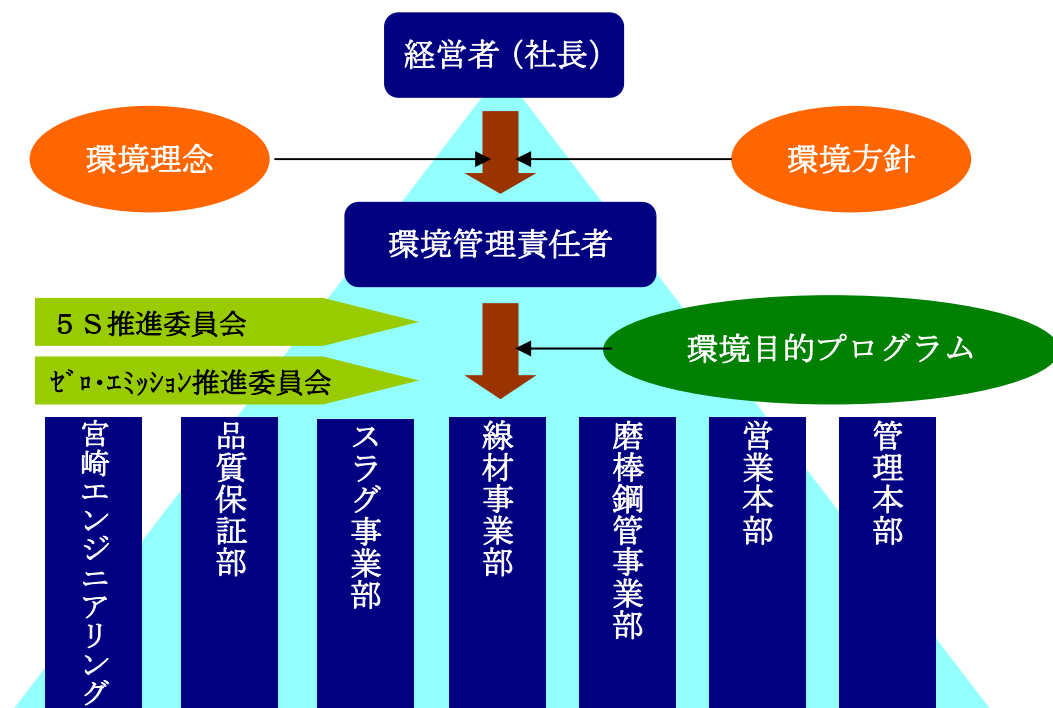
また、上記スローガンを念頭に、次の活動項目を推進します。

1. 全ての事業活動について、環境影響を評価し、汚染の予防に努めると共に、技術的、経済的に可能な範囲で、環境保全活動に取り組み、環境マネジメントシステムの継続的な改善、向上を図ります。
2. 環境関連の法律、規制、協定等を順守するとともに、技術的、経済的に可能な範囲で、自主基準を設定し、環境に影響を与える恐れのある事業活動を責任をもって管理します。
3. 社内改善活動を実行し、地球温暖化防止活動に積極的に取り組みCO<sub>2</sub> 排出量の削減に努めます。また、環境保全、資源保護、再生産性に優れた資材の購入に努めます。
4. ゼロエミッションの再資源化目標値99.5%以上を維持します。
5. “5S活動”を通じ、工場内の美化、緑化運動を推進します。
6. 地域住民とのコミュニケーションを大切にします。
7. この環境方針達成のために、環境目的及び目標を設定するとともに、定期的及び必要に応じてこれを見直します。
8. この環境方針を全従業員に環境教育・訓練により、周知徹底を図ります。また、取引先に対しても理解と協力を求めています。

# 1. 環境マネジメント

## 推進体制と活動経緯

### ■推進体制



### ■環境活動の経緯

2001年	6月	ISO14001 認証取得 (1996年版)
2004年	9月	ゼロエミッションのキックオフ
2005年	6月	第1期ゼロエミッション目標 全工場にて95.0%達成
2005年	11月	名古屋市エコ事業所認定 (本社工場)
2006年	3月	第2期ゼロエミッション目標 全工場にて98.5%達成
2006年	5月	ISO14001 移管取得 (2004年版)
2006年	6月	第3期ゼロエミッション目標 全工場にて99.5%達成
2006年	10月	5S活動のキックオフ
2008年	11月	環境報告書 第1版発行
2009年	9月	環境報告書 第2版発行
2010年	8月	環境報告書 第3版発行

### ■名古屋市エコ事業所認定取得

本社工場は、事業活動において、環境に配慮した取り組みをしている事業所として、名古屋市のエコ事業所認定を2005年11月に取得し、また、今年の11月に2回目の更新申請を予定しています。

#### <審査取組内容>

- 環境管理システムの導入
- 自動車利用における環境配慮の実施
- 緑化の推進
- 廃棄物の発生抑制、リサイクルの推進
- 省エネルギー・省資源の推進
- グリーン購入の実施
- 環境情報の開示・提供
- 社会貢献活動・環境教育の実施

エコ事業所認定看板



# 1. 環境マネジメント

## 環境目的プログラム達成状況

『環境目的プログラム』に沿って環境管理活動を推進しています。

※目標の達成度：★★★★100%以上 ★★★75%~99% ★★50%~74% ★49%以下

### 1. エネルギーの削減

工場別	項目	2010年 6月~2011年 5月		
		目標	実績	評価
全社	エネルギーの削減	2009年度比 1.0%減(原単位)	0.87%減	★★★
本社工場	電力使用量の削減	2009年度比 6.9%減(原単位)	1.60%減	★ (※1)
	都市ガス使用量の削減	2009年度比 6.9%減(原単位)	17.61%減	★★★★
知多工場	電力使用量の削減	2009年度比 2.3%減(原単位)	11.09%増	★ (※2)
	LNG使用量の削減	2009年度比 8.2%減(原単位)	3.92%減	★ (※3)
十四山工場	電力使用量の削減	2009年度比 2.0%減(原単位)	2.56%増	★ (※4)
	引抜・矯正油使用量の削減	2009年度比 15.0%減(原単位)	21.90%減	★★★★

### 2. 廃棄物の削減

工場別	項目	2010年 6月~2011年 5月		
		目標	実績	評価
本社工場	ゼロエミッション	再資源化率 99.5%以上	99.96%	★★★★
	特別産業廃棄物の有価引取り	100%達成	96.87%	★★★
知多工場	ゼロエミッション	再資源化率 99.5%以上	99.95%	★★★★
	廃酸の削減	2009年度比 62.0%減	33.67%減	★ (※5)
十四山工場	ゼロエミッション	再資源化率 99.5%以上	99.88%	★★★★
全社	ゼロエミッション	再資源化率 99.5%以上	99.94%	★★★★

### 3. 環境負荷の低減

工場別	項目	2010年 6月~2011年 5月		
		目標	実績	評価
本社工場	排水基準の順守	自主基準値外れゼロ/年	0件/年	★★★★
	法・条例の順守(騒音)	敷地境界線での規制値外れゼロ/年	0件/年	★★★★
知多工場	排水基準の順守	自主基準値外れゼロ/年	0件/年	★★★★
	法・条例の順守(騒音)	敷地境界線での規制値外れゼロ/年	0件/年	★★★★
	化学物質使用量の削減(ボンデ)	2009年度比 2.2%減(原単位)	15.95%減	★★★★
十四山工場	法・条例の順守(騒音)	敷地境界線での規制値外れゼロ/年	0件/年	★★★★

< 目標を達成出来なかった要因と反省 >

1. エネルギーの削減 電力使用量、LNG使用量(知多工場)の削減については、2010年度は意識的に高い目標を設定し、1年間取り組んで来ましたが、受注構成の変化や年度後半の東日本大震災による生産量の減少に伴い原単位ベースでは目標対比で大きく未達になってしまいました。
2. 廃棄物の削減 酸回収装置の故障で一時酸回収が出来なくなり、廃酸処理業者にて処理を実施した為、目標未達となりました。(※5) 現在は原因を究明の上、対策を実施して正常に稼動しています。

# 1. 環境マネジメント

## 環境教育

当社は環境方針に従い、環境目的プログラムを作成しています。各部門は、アクションプランの中で具体的に実施計画として取り上げ、達成すべく取り組んでいます。従業員各自が意識を高めながら、正しい知識に基づいて取り組み、そして、その取り組みを成果に結びつけるために環境教育を継続的に行っています。

### ■社内啓蒙活動

#### ●ゼロエミッション活動

再資源化率を99.5%以上、埋め立て率を0.5%以下の目標を掲げて、「捨てればゴミ、分ければ資源」をモットーに、全社員ゴミ分別に取り組んでいます。職場で分別したゴミをリサイクルステーションにて計量して、処理業者に収集されるまで仮保管しています。

リサイクルステーション



#### ●社内環境教育

環境教育として、①廃棄物の低減、②有害化学物質の低減、③大気汚染の防止、④省エネルギー、⑤二酸化炭素の低減など、従業員みんなが関わっている環境面の教育実施をし、環境保全の意識向上に努めています。

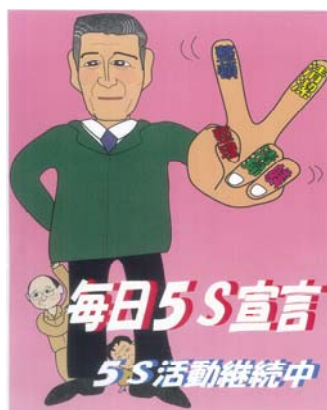
教育風景



#### ●5S活動

2006年9月に5S活動を開始して以来、月一回の推進委員会の開催、及び月一回の職場の5Sパトロールを実施しています。「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躰」の5項目で各職場の評価を行い、各職場はそれぞれに工夫をして、不要なものがない、使いやすい表示や置き方、戻しやすい整頓方法など、無駄のない安全な職場を目指し活動を行なっています。また、年1回トップパトロールを実施したり、5S標語や5Sポスターの募集を行なって5S活動に対する意識の向上を図っています。

2010年度 ポスター優秀賞



パトロール巡回中



5S 賞状授与模様



# 1. 環境マネジメント

## 環境会計

当社では、環境会計を環境への取組みコストの面から評価し、企業経営に活用するとともに定量的な情報を開示するために重要なツールと考え、レベルアップを図り、仕組みの充実に努めています。

### ■環境保全コスト

(単位)：百万円

分類		2010年度	
		設備投資費	経費
事業エリアコスト	公害防止コスト	52.1	48.6
	廃棄物リサイクル費用	0	57.4
管理活動	環境マネジメント費用	0	3.2
研究開発コスト	公害防止に関する研究開発費用	0	0
社会活動コスト	緑化活動費用	0	1.1
	環境報告書 発行費用	0	0.2
合計		52.1	110.5

・環境負荷低減のため知多工場にAGV車（無人搬送車）を新規設備し、新酸洗ラインの本格稼動により旧酸洗ラインの設備を撤去しました。



### ■環境保全効果に伴う経済効果

(単位)：百万円

分類	内容	2010年度
		経済効果総費用
省エネルギー効果	省エネルギーによるエネルギー費用の削減（注1）	2.0
	製造プロセスの省略による費用削減	55.3
廃棄物・リサイクルによる効果 有価物売却益	・廃棄物削減による廃棄物処理費用の削減（注1） ・硫酸回収装置による廃棄物の削減と有価物の売却による収入（七水塩）	21.1
物流効果	モーダルシフトによる輸送費の削減	2.2
合計		80.6

(注1) 前年比の低減分を経済効果としました。

\* 環境対策コストの把握については、環境省の「環境会計ガイドライン2005年度版」を参考に分類し集計しました。